**平山　五朗 （ひらやま・ごろう）**

**１、プロフィール**

昭和25年成田千空らと五所川原俳句会をおこし、青森の「暖鳥」会員となる。「万緑」に参加、昭和23年には第１回暖鳥賞をうける。農業に従事しながら独特の俳風を拓いた。

＜生没＞

1926（大正15）年２月21日 ～ 1968（昭和43）年９月９日

＜代表作＞

『平山五朗句集』

＜青森との関わり＞

昭和初年一家が樺太に移住、終戦後五所川原に引き揚げ、農業会に勤めさらに家業の畜産に従事する。

**２、作家解説**

本名は平山幸三郎。大正15年北郡五所川原町に、父良三郎・母まさの長男として生まれる。昭和３年一家は樺太に移住、父は林業に従う。昭和19年庁立大泊中学校を卒業、大洋漁業に勤める。終戦により一家は離ればなれに故郷に引き揚げる。彼は23年帰郷し、農業会に勤める。加藤紫明の主宰する「黎明」に拠り俳句を始める。25年、成田千空・寺山常三・三上悠三郎らと五所川原俳句会を結成、「暖鳥」会員となる。昭和２７年中村草田男主宰「万緑」に参加する。カリエスを発病。この頃、「藤白しカリエスの影曲りたる」「遠き凧あやつられても歩きたし」のような独特の俳風に達する。29年第１回暖鳥賞受賞。家業（畜産業）に従事する。31年カリエス再発、後２年間ギブスベットで療養生活を送る。

 　37年成田みきと結婚、その後数年間は明るく活気ある句風を生む。しかし、家業に追われて42年頃から作品の量が少なくなる。43年９月９日逝去。享年43歳。

『平山五朗句集』の後記で成田千空の挙げている句。

水中花吾が死後よりも父母の老後

力欲し吾がつく杖を蟻のぼる

秋のバラ吾子には赤き靴買はむ

**３、資料紹介**

〇『平山五朗句集』

図書

1969（昭和44）年９月９日

190mm×120mm

巻頭に著者の遺影。全句数492を「帰郷」「疾風の杖」「赤い靴」の三部に分けて編集。巻末に成田千空の後記と著者の略歴がある。編集・発行は五所川原俳句会。